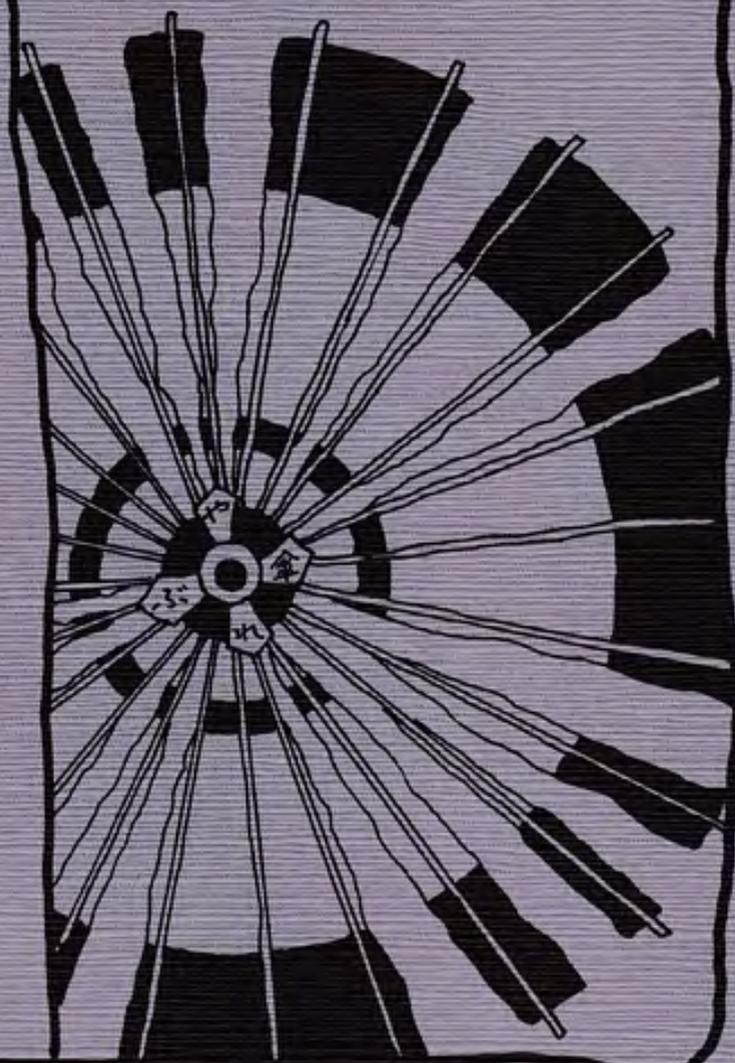


やぶれ傘



一〇八号

二〇一九年六月

家具店を出てゆくベッド雪柳	根橋宏次
竹の皮下より脱いでもうをはる	大島英昭
つばめの巢みあげてゐたる三人目	きくちきみえ
青麦や空の真中にちぎれ雲	廣瀬雅男
カタバミへ午前十時の目がくわつと	藤井美晴
夏近き居間のピアノを開けてみる	丑久保 勲
囀れり二度折りかへすシャツの袖	青谷小枝
散る花の中をこちらへ人が来る	渡邊孝彦
メーカ一の帽子配られ農具市	瀬島酒望
夏空がいくつも雨後の水溜り	安藤久美子
行きずりに人參の花教へられ	白石正躬
珈琲に砂糖ひと匙夏隣	天野美登里
靴擦れの痕つやつやと夏に入る	小山よる
ゆるゆると缶のながるる春の川	秋山信行
つり橋に蛇の衣掛けてありにけり	有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

桜並木おくの奥まで花のいろ	松村光典
夏に入るポケット多き旅靴	中島和子
花冷や象牙の箸は銚色に	貫井照子
それとなく氷の別れす額の花	橋本美代
あめんぼう遠くのあめんぼう揺らす	武藤節子
石垣に続く生垣雪柳	浅嶋 肇
まつすくな道をまつすく行く立夏	泉 一九
横丁は昭和百年チューリップ	岩藤礼子
更衣軽ろき気分も加はりて	木村瑞枝
遅き春鍋に大きな貝杓子	黒木東吾
馬鈴薯の花はむらさき雨雫	黒澤次郎
山吹や柵をするりと猫抜けて	小卷若菜
溶接の火花と匂ひ花ぐもり	齋藤朋子
満開のこぶしの一木幼稚園	高橋 均
姿消え声だけとなる揚雲雀	時田義勝

傘さささぬ人ある程の花の雨
 あめんぼう遠くのあめんぼう揺らす
 源流は雲浮くあたり青き踏む
 陽炎や昔の約は有耶無耶に
 燕来る爺さん婆さんだけの家
 図書館の満席にしただけの時
 母といふ肩書もあり青き踏む

武藤節子

焼きそばに木の芽を添へてありにけり
 嵐にも散らずに居たる桜かな
 昼下りの独り吟行犬ふぐり
 玄関に鉢植の葱坊主かな
 夏草や遠くまで行く用水路
 この先は葉桜の道暗渠道
 立葵駅のホームのかたすみ

村田 武

踏切の先は満開さくら道
保育園の竣工祝賀風光る
上げ潮の白波寄する春の川
マンションに引越車列春ともし
青き踏む遊覧船の見ゆる丘
鉄柵に「立入禁止」春女苑
春昼のダイヤの乱れ狼狽へる

森美佐子

盆栽の梅一輪の咲きにけり
朽ち舟の伏せある川辺青き踏む
げんげ田の向うぼつりと精米所
水際まで下る土手道春の草
芽柳の揺るる大波小波かな
鶯のかすかなこゑに立ち止まり
桐咲いて風やはらかき奥会津

山本久枝

湯本正友

仰ぎ見る枝垂れ桜や空まさを
薄ら日に一枚羽織る花見かな
生垣の葉のつややかな藪椿
うららかにし水の際の砂に潜る貝
木香薔薇アイチの先の空青く
遠く近づくに鶯を聞き畑に行く
枝揺らしし桜啄む茶の小鳥

湯本実

寒暖を繰り返す日々鳥帰る
草餅を二つ求めて帰り
お茶漬けに貝の佃煮の昼
なじみの顔に住職顔に春彼岸
暗渠道に子供の声や初燕
通り抜ける街の公園夜桜
乃木神社への乃木坂上る春帽子

春彼岸まるい柄杓と木の手桶
緩やかに風まとふごとミモザ咲く
干物屋の干物へ花は散りぬたる
空青し椎の芽吹ける谷中墓地
からし菜や犬と少女の見え隠れ
立夏かなジオロンの音の透きとほり
おくれ毛を風に遊ばせ今朝の夏

吉田幸恵

萩焼の茶碗を買うて梅七分
土筆摘み少女となりし子と競ふ
にはとりのくぐもる声や木瓜の花
石垣に続く生垣雪柳
サスペンスドラマ見てゐる目借時
階の花屑風に舞ひ立ちて
三枚に魚を下ろす立夏かな

浅嶋肇

安齋正蔵

桜並木あちみこちみてぶらぶらと
ぶらんこを漕ぐ度頭うえした下に
がやがやと園児らがゆく桃の花
病癒えゆつくり散歩する五月
指先の動き激しき薪能
母の日に母丹精の花届く
友よりの新茶ことしも届きけり

石塚清文

見沼べり遠くへ伸びるさくら道
一筋の水脈の先には初蛙
それとなく拾つてみたる桜貝
三竿の太陽かすむ春ぼこり
春の雨仮設足場に猫の居て
牛蛙沼の静けさ際立って
花吹雪牧場の柵に作業服

記事いつか来た途に似て春寒し
春や憂し友に傘寿を祝はれて
傘を持ち秘密の谷戸へ多羅芽採り
鳥帰る空も田面もさびしくて
はしけやし畔塗る横の畎に水
谷水の冷たさ覚え芹を摘む
雉鳴いて残す尾のあと畑の朝

石原 健二

祖谷溪に家の四五軒辛夷咲く
雪解けの田の土黒き奥会津
連翹の先にテニスの音がする
カーナビに連れてこられて谷若葉
まつすぐな道をまつすぐ行く立夏
杉の木の間経木の舟に初鰹
筍の切り口の汁手でぬぐひ

泉 一九

花馬酔木石燈籠を囲みをり
呉服屋のショーウインドウに吊し雛
認知症の検査を受ける春の昼
溜池の岸辺に浮いて残り鴨
境内にぢぢばば集ふ花見会

伊藤更正

八丈島をおほふ春星ひとりじめ
花かんざしの揺るるがごとく藤の花
夜の桜散りをり滑り台に人
雀らに花散る午後の日差かな
朧夜の梨棚白く色こぼす
乗つてすぐ市電の窓に花びらが
母の日の椿の花の首飾り

稲田延子

岩藤礼子

花ひとつ人が三人木の下の
うかうかと厚着のままの万愚節
横丁は昭和百年チューリップ
葱坊主揺れ合ひ子らは笑ひ合ひ
資源ゴミに辞書参考書夏きたる
鯉幟残るいとこは一人のみ
思ひ出を擦り合せつつ新茶汲む

枝みや子

春かなし振り子時計の音だけが
満開の桜人波乾門
黄昏のボートコースに散る桜
窓磨く更に新たな春日差
初夏の風グリーンの海の古宇利島
棕櫚の花掃いてもすぐに散り来たる
坂の上ジャスマン香る喫茶店

大野芳久

引つ詰めの少女の額風光る
葉脈が齒に残りたる桜餅
立ち泳ぎしている亀や水温む
春陰や医院二か所を廻りたり
朝早し沖に舟浮く木の芽時
山笑ふ宿は坂下海のそば
西伊豆の山並ひかる遅ざくら

奥田温子

樺林の風の明るさ春来たる
三月の満月おぼろ花いまだ
街川の淀みしあたり花のくづ
花冷えや選挙ポスターみな笑顔
露味噌の瀬戸の小鉢や外は雨
柵超えのボールを追ふ子草茂る
庭の木々茂りて鳥は声のみに

◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
7月	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	安田庭園・回向院	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

8月18日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR両国駅西口改札を出たところ。吟行地は安田庭園と回向院など。句会場は森下文化センター第1研修室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856